

学校だより



井波っ子

令和5年10月24日

南砺市立井波小学校

10月号 第349号

井波小学校HPアドレス
<https://inami-e.nanto.ed.jp/>

(題字は昨年度県書き初め大会出場児童)

より高い目標に向かって

教頭 久田 潤

10月14日(土)に学習発表会を行いました。私は体育館の後方から見ていましたが、どの子供も一生懸命なのが伝わってきました。一つ一つの言葉や動きに精一杯に取り組む子供たちの姿に、とても素直な子供たちだと感じました。

実は、学習発表会の1週間前に、一度発表を見せてもらう機会がありました。その時も子供たちは一生懸命に演じていました。そこからの更なる高まりを期待して声をかけたことで、子供たちの気合は一層高まったのでしょうか。声が大きくなり、集中して取り組んでいる様子が分かりました。そして、このような子供たちだからこそ、もっともっと高めることができるのではないかと感じています。

これまで、私はいろいろな演出家の舞台に立たせていただきました。演技は俳優に任せて問題があった場合のみ指摘するという方もいらっしゃいましたし、実際に演出家自身が言葉の言い方や立ち居振る舞いをやってみせてくれる方もいらっしゃいました。舞台スキルが乏しい自分は、演出家がやってくれたように振舞おうと考えていました。この指導がなければ、これでよいのだろうかと常に考えながら演技することになったと思います。市民ミュージカルや市民オペラ等のアマチュアをとりまとめる場合は実際にやって見せてくれる方が分かりやすいのです。

頑張ろうとしている子供たちを前に、私たちは実際に言葉の言い方や立ち居振る舞い等を具体的に示す指導ができたのでしょうか。テレビでは、天才子役という言葉をよく耳にします。県内でも小学生が演劇やミュージカルに参加し、活躍している姿を見かけます。指導者は実際にやって見せながら子供の表現を高めています。

教師は表現の機会が子供たちの成長の場となるよう考えています。子供たち自身に考えさせ、創り上げる喜びや満足感を味わわせることもあります。これは子供に任せることを前提としているので、仕上がりには限界があります。子供の目指す目標や完成度をどこまで設定するかは、教師の強い願いによります。だからこそ、私たち自身が新しい挑戦をし、自分を高める努力を続けなければならないと思っています。

「自他の命」を大切に

栽培担当 大岩 順司

井波小学校では、植物を育て、花を咲かせたり野菜を収穫したりする活動を通して、植物を大切に作る心や態度を育てることをねらいとし、今年度は「自他の命を大切にする態度」の育成に重点をおいて活動を進めています。

6月上旬に「花と緑の銀行」から花苗をいただき、栽培委員会の児童がマリーゴールドや、ペチュニア、アゲラタム等の色彩豊かな花を、体育館横と正面玄関前の花壇に植えました。

今年は猛暑により、花の世話は水やりと除草が大変でした。登校した後、花に水を与える様子や進んで手伝う姿をよく目にしました。また、2学期始めに行われた「親子清掃」で、委員会の児童は花壇の整備を担当しました。保護者の方も自発的に加わっていただき、夏休みの間に生い茂った雑草をきれいに取り除くことができました。そのお陰で、現在も、きれいな花を咲かせ、見る人の心を癒しています。

今後、栽培委員会では、冬季間にも屋内で植物に親しむ活動を企画しています。花を大切に育てることで、自分や周りの人の命も大切に作る心を育てていきたいと思っています。

